

論文内容要旨

論文題目

訪問看護師のターミナルケア行動指標に基づくターミナルケア実践の実態

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏名：高橋直美

【内容要旨】

本研究は、コンピテンシーの概念に基づき訪問看護師のターミナルケア行動指標を作成し、作成した行動指標を用いてターミナルケアの実践の実態を明らかにすることを目的とした。

Spencer らのコンピテンシー・モデル開発デザインを参考に 13 のコンピテンシーと 62 の行動指標で構成される訪問看護師のターミナルケア行動指標を作成した。ターミナルケア実践の実態調査では、「いつも行っている」「よく行っている」の回答が 90%以上の行動指標は 29 項目ある一方で、「ほとんど行っていない」「行っていない」割合が 10~22%と相対的に高い行動指標は 10 項目あった。訪問看護経験年数の 4 分位による比較では、経験の長い方の実践頻度が有意に高まっていた。

行動指標と訪問看護経験年数との関連が明らかとなり、ターミナルケア・コンピテンシー・モデル構築の基礎資料となる可能性が示唆された。

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 高橋 直美

論文題名： 訪問看護師のターミナルケア行動指標に基づくターミナルケア実践の実態

審査委員：主審査委員 古瀬 みどり

副審査委員 大竹 まり子

副審査委員 小林 淳子

審査終了日：令和2年1月10日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

訪問看護を利用しながら在宅で看取る利用者数は増加しているが、ターミナルケアの質に焦点を当てた評価基準はなく、質が担保されているとはいえない現状にある。ターミナルケアの質を担保するためには、成果につながる行動を意味するコンピテンシーの概念に着目し、ターミナルケアに特化した行動指標の作成が必要となる。本論文では、コンピテンシーの概念に基づき訪問看護師のターミナルケア行動指標（以下、行動指標）を作成し、その行動指標を用いてターミナルケア実践の実態を明らかにした。

行動指標の作成では、Spencerらのコンピテンシー・モデル開発デザインを参考に訪問看護ステーション（以下、ステーション）の管理者が“ターミナルケアに卓越している”と評価する人材12名と、Bennerのドレファスモデルを参考に訪問看護師経験が3～5年などを基準とした平均的人材8名を対象に行動結果面接を行った。逐語録から行動データを抽出し、コンピテンシーの枠組みに分類した後、質的帰納的に行動指標を作成し、妥当性を検証した。その結果、ターミナルケア行動指標は、13のコンピテンシーと62の行動指標で構成された。行動指標を用いたターミナルケア実践の実態調査は、450ヶ所のステーションを系統的抽出法で選定し、各ステーション3名、計1,350名を対象に自記式質問紙調査を実施した。回収数は176（回収率13.0%）で、その内160を分析に用いた（有効回答率90.9%）。対象者が「いつも行っている」「よく行っている」の回答を合わせて90%以上の行動指標は、62項目中29項目であった。「ほとんど行っていない」「行っていない」の割合が10～22%と相対的に高い行動指標は10項目であった。また訪問看護経験年数の4分位による比較より、経験年数と実践頻度との有意な関連のある項目が認められた。

これらの結果より、ターミナルケアにおいて看護の質の向上につながる行動指標を示すことができた。またターミナルケア・コンピテンシー・モデル構築の基礎資料となる可能性が示唆された。本論文は、超高齢多死が進む我が国において、高齢者看護学・在宅看護学の実践に貢献できる知見である。以上により、本論文は看護学博士論文に相応しいと判断した。